

## (2) その他

### 1) 保健事業および保健補導員活動のあり方について

#### 1. 経過と主旨

令和7年4月正副区長等懇談会において1地区より「保健補導員（以下「補導員」）の廃止について」が協議事項として提起されました。

協議事項の内容：保健補導員制度は地域住民（補導員）と行政が連携し、戦後の劣悪な衛生環境の改善を目指して市町村単位に任意に組織されたものであり、本制度には法令の根拠はない。また、現代において衛生環境は十分改善されているため既にその職責は終わっている。諏訪地域では岡谷市が令和7年度に廃止している。（長野県内でも補導員を廃止する自治体がある）廃止するのが妥当ではないか。

→ これを受け、本村における保健事業と補導員活動の今後のあり方について、区長・自治会長・補導員経験者のみなさまにアンケートを実施し、方向性について検討を行いました。

#### 2. 原村補導員の沿革

昭和49年に各地区の区長・衛生自治会長の協力のもと、区長選出で人選し、保健補導員会が結成されました。以降自ら健康について学び、健康意識を高め自分の家庭そして地域に広める活動を担うことを目的に活動しています。

現在の活動の特徴は地域密着での普及啓発・地区での講演会・研修会開催などが中心です。原村保健衛生自治推進協議会組織に位置づけられ、環境衛生部会・食生活改善部会・母子愛育部会とともに連携して活動しています。

主な活動（体制：14地区34名）。

- ア. 県や村が開催する地域の保健活動の研修で学んだことを自ら実践し、家族・地区へ普及
- イ. 地区活動として、健康に関する講演会・研修会等を企画・実施
- ウ. 区、自治会の健康課題に対し、行政との連携・提言
- エ. 結核胸部レントゲン撮影への協力（周知・受付）

#### 令和6年度実績

研修会参加 ・普及	・「つながりワーカー養成講座」「がん検診講演会」「冬の運動教室～フレイル予防～」「減塩研修会」「自殺対策ゲートキーパー養成講座」 ・春夏秋冬健康チャレンジプロジェクト/年4回。
地区活動	・地区ごとにテーマを決め各地区年1～2回開催。「健康体操」「健康寿命と諏訪地域の現状（講演）」「がん検診講演会」「歯周病予防（講演）」等。
健康課題に対する連携・提言	・地区住民の健康について、保健師との連携。・すくだせカフェ参加（年1回）健康・医療をめぐるテーマについて住民の方と医療・行政の担当者が共に学び対話する場。
結核胸部レントゲン撮影への協力	・年1～2回。検診前の周知、健診当日の受付協力（会場：各地区公民館等）。

### 3. アンケート調査

#### (1) 調査の概要

対象・期間

ア. 区長・自治会長（配布 14、回収 12、回収率 85.7%）／令和 7 年 6 月 16 日～7 月 11 日

イ. 令和 4～6 年度補導員経験者（配布 83、回収 51、回収率 61.4%）／同上

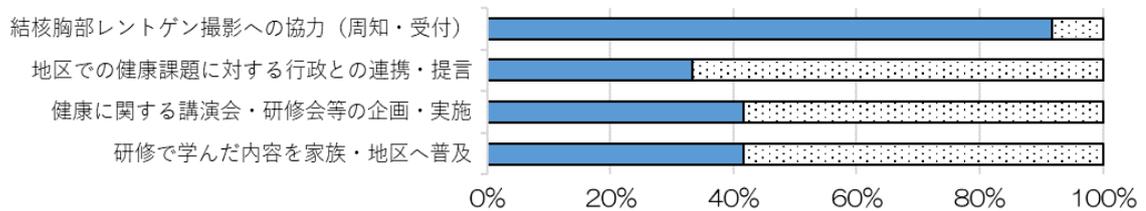
#### (2) 実施方法

郵送配布、郵送またはインターネット回答

#### (3) 調査結果のまとめ（抜粋）

### ア. 区長・自治会長版

#### A. 保健補導員が現在取り組んでいる以下の活動内容をご存じですか？

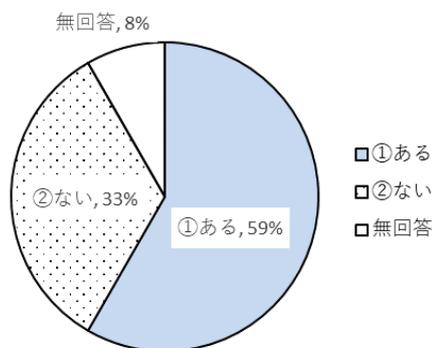


(人)	研修で学んだ内容を家族・地区へ普及	健康に関する講演会・研修会等の企画・実施	地区での健康課題に対する行政との連携・提言	結核胸部レントゲン撮影への協力 (周知・受付)
■知っている	5	5	4	11
□知らない	7	7	8	1

- ・補導員の活動として、村の結核胸部レントゲン撮影への協力は広く知られているが、家族・地区へ普及、健康に関する企画・実施、行政との連携・提言についての活動は広く知られていない。

#### B. 保健補導員について、区・自治会独自の役割がありましたか

(災害時の救護活動、区・自治会行事への参加・〇〇係、地区ボランティアなど。)



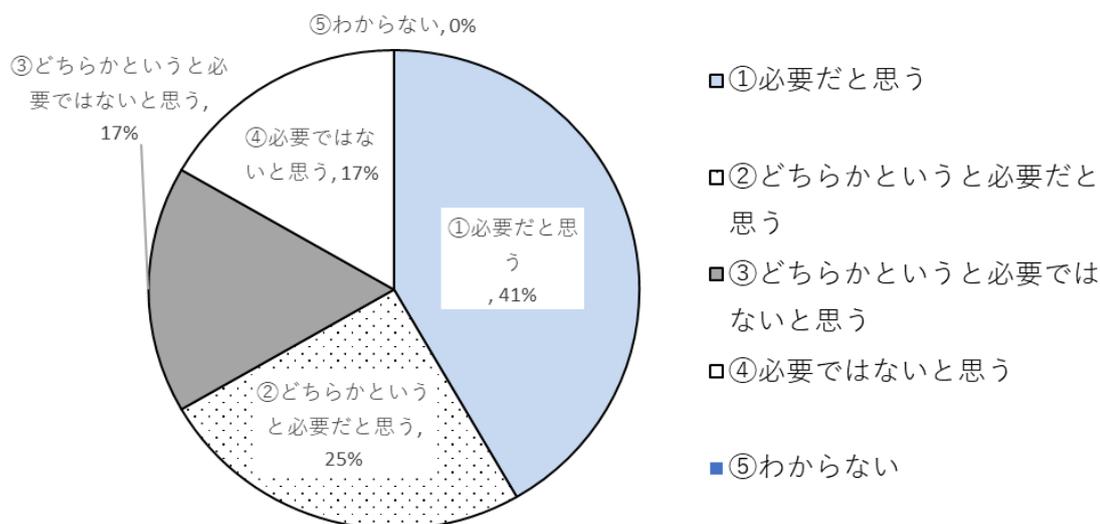
#### 具体的役割

(自由記載：複数回答。主な項目別に集計)

- ・自治防災組織関係 (3)
- ・区、自治会行事への参加 (1)
- ・清掃活動 (1)
- ・イベント開催など (2)

- ・半数以上の区・自治会で区・自治会独自の役割（防災関係・救護等）がある。

C. 村では健康寿命の延伸をめざし、健康づくりを推進するにあたり、保健補導員活動を今後も継続してほしいと考えています。これについてどう思われますか？



C. で①または②と回答された方へ

保健補導員活動について望む取り組みや新たに希望する取り組みがあれば教えてください。

- 高齢化に伴い健康寿命を伸ばすことが大変重要になってくると思います。そのようなことに関連した指導活動を進め、取り組んでもらいたいと思います。
- 保健補導員を廃止する自治体が多い中、地域における健康づくりの担い手として必要。また、万が一の災害等に果たす役割は大きいと思います。
- 食や健康を通じて住民の親睦を図るようなこと。
- 年配の方が増えているので、積極的な健診の受診の勧奨に取り組んで頂ければと思います。
- 地域住民に理解される活動になる様希望します。
- 各区でウォーキングやハイキングを年数回行った方が良い。
- 継続的なフォローアップをお願いします。

C. で③または④と回答された方へ 必要ではない理由を教えてください。

- 高齢化により人選が難しい。
- 当村で実施している保健事業はわかりませんが、結局地区放送などの準備などは区長が出来るので。又、健康に関する周知・啓発活動は保健福祉課で予定を作り、各公民館で指導をおこなえば良いと思う。
- 現在の日本の状況と保健補導員の意義がアンマッチ、感染症などにも対応困難。

C. で③または④と回答された方へ

地域保健活動を実施する上でよい案がある場合は具体的に教えてください。

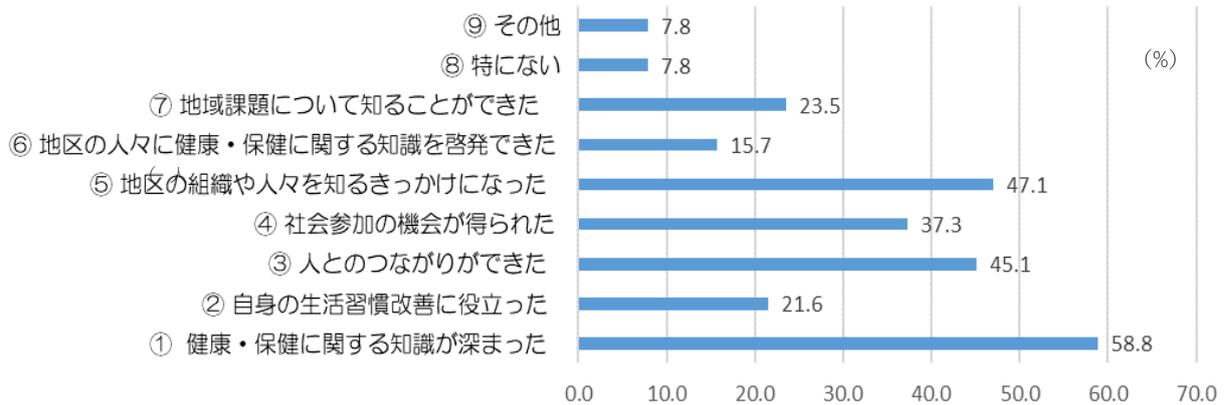
・村の方からイベントの企画をしてもらい、区民に知らせ、実行（行政主体）してもらえたらわざわざ保健補導員を設置しなくてすむかと。

・健康に関する講演会などは村が直接区長と話し、公民館を借りて地区区民を集めてもらって何回か活動を行えば良いのでは？

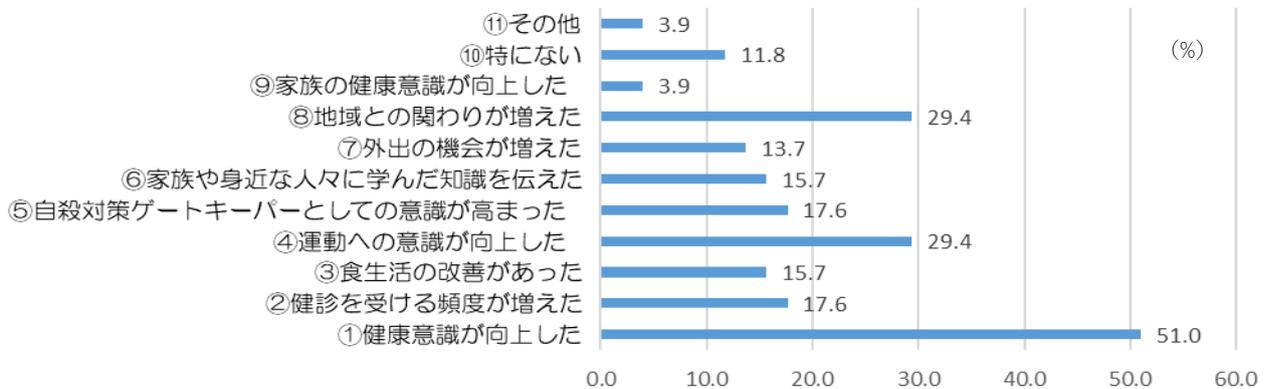
- ・活動の意義は一定程度評価されている一方、「役割の見えにくさ」「担い手確保の難しさ」「補導員ではなく行政が事業実施すべき」等の指摘が併存している。
- ・廃止または機能移管（一部を行政が担う）を求める意見も一定数あるが、補導員活動について継続賛成の声が多数（66%）。

イ. 保健補導員経験者版

A. 補導員として活動して良かったと感じる点を選択してください。（複数選択可）

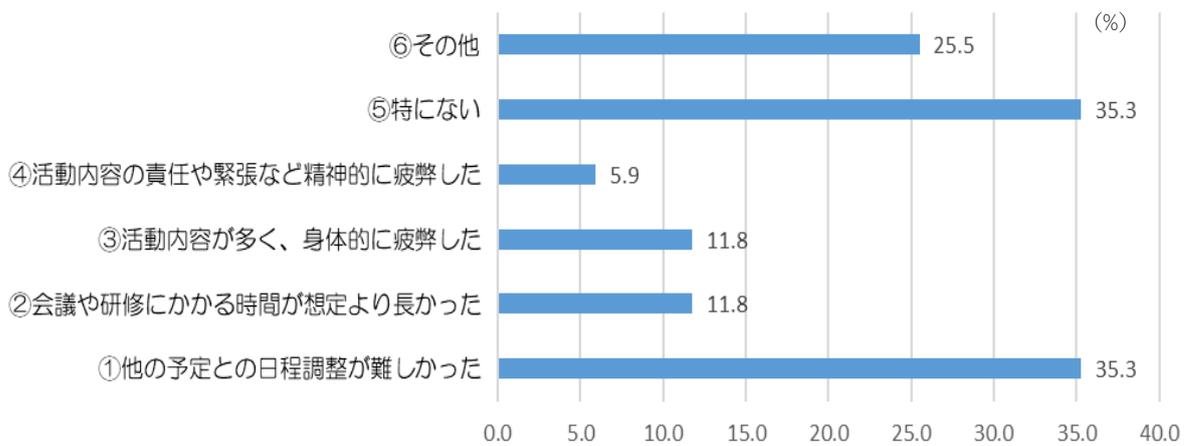


B. 補導員を経験して変化があったと感じる点を選択してください。（複数選択可）



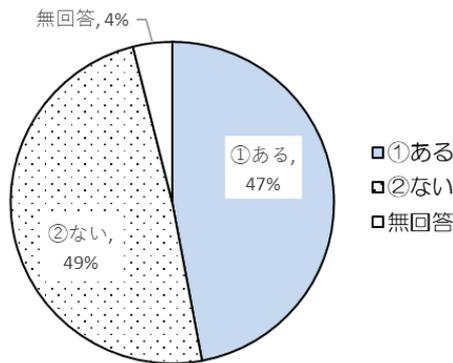
活動して良かったと感じる点は「健康知識が深まった」「地区の組織や人々を知るきっかけになった」「人とのつながりができた」とする回答が多数。

C. 補導員として活動して負担を感じた点を選択してください。(複数選択可)



D. 保健補導員について、区・自治会独自の役割がありましたか

(災害時の救護活動、区・自治会行事への参加・〇〇係、地区ボランティアなど。)

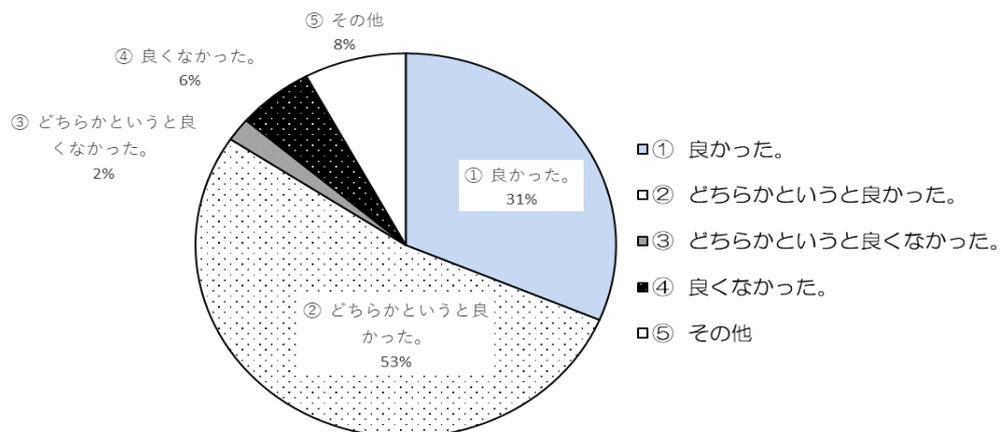


具体的役割

(自由記載：複数回答。主な項目別に集計)

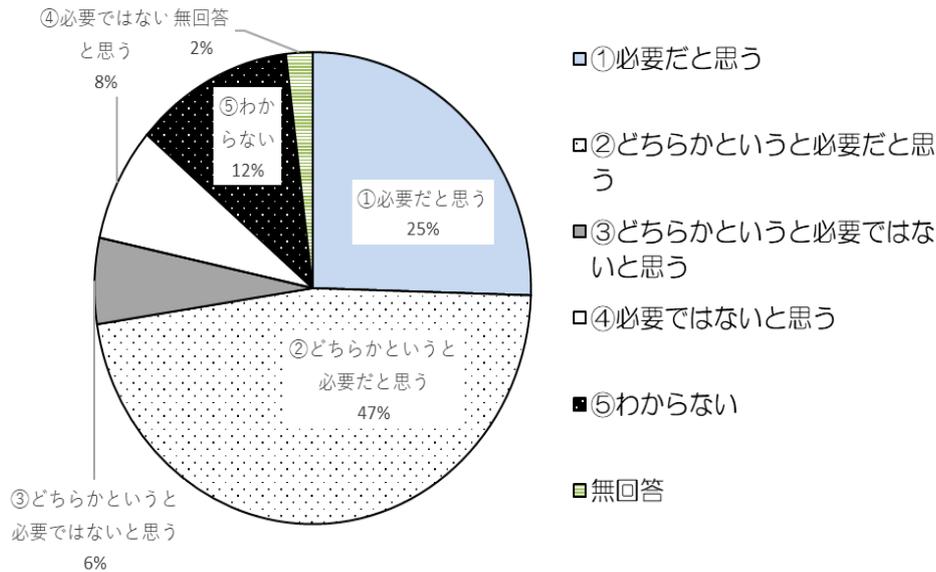
- 自治防災組織関係 (委員登録・避難練参加・救護班・福祉班・安否確認他) (7)
- 区、自治会行事への参加 (7)
- 清掃活動 (7)
- 運動会救護係 (6)
- 活動内容を区報等で区民に報告 (1)

E. 保健補導員を経験してどのように感じますか。



- 補導員を経験して「良かった/どちらかという良かった」とする回答が多数 (84%)。

F. 村では健康寿命の延伸をめざし、健康づくりを推進するにあたり、保健補導員活動を今後も継続してほしいと考えています。これについてどう思われますか？



F. で①または②と回答された方へ

保健補導員活動について望む取り組みや新たに希望する取り組みがあれば教えてください。

• 地域の人と体を動かす取り組みは良いと思う。(運動・フレイル予防への要望他5件)
• 年齢ごとの健康増進のとりくみ、年齢ごとに気をつける健康習慣のセミナー。(セミナー要望他1件)
• 災害時の救護活動について勉強する機会があれば役に立てる事があるかもしれないと思う。
• がん予防啓発活動。
• 大人との関わりが主でしたので地区の子ども達とも関わりたいです。
• 会議等に参加してみて、本当はもっと若い人達のかかわりが必要なのかも？
• 必要だとは思いますが、今の時代60・70代でも仕事をしている人がほとんどで集まるのが大変。
• 保健補導員から地区の方々(特に男性)に周知してもらうには限界があるように思います。村全体の講演会など開催するのは？
• 回数を少し減らし、活動すれば良いと思います。
• 広報はら等に『あなたの地区の保健補導員さん』『今月の保健補導員さん』といった具合に、写真付きとかで研修等に頑張って出席したことを知ってもらったり、紹介して周知してもらえるとモチベーションアップに繋がるかも？

F. で③または④と回答された方へ 必要ではない理由を教えてください。

• 委員になったから研修会へ参加をさせていただきましたが、地域での企画研修(地区活動)への区民の参加率は少なく、あまり必要性を感じなかった(興味をもたれる内容でなかったかも知れませんが)。
• 地域に広めようと思っても参加者がいない(役員だけ)。もっと積極的に出来る人を選出しないとその時だけで終わる。
• 他の方法での推進方法を探してほしい。実際、区の皆さんに推進できているかは疑問を感じる。

F. で③または④と回答された方へ 地域保健活動を実施する上でよい案がある場合は具体的に教えてください。

• 地域保健活動（地域での企画研修）を考えるのも大変でした。逆に村から指定や案をもらえると助かるなと思いました。

• 研修で学んだ事を地区へ普及する役割については、今現在新聞・テレビで健康情報については広く周知されている。これは保健補導員となった個人が研修を受けて、そして、又次の方が研修を受けて、と一人一人がアップグレードされている形での普及と思っている。保健福祉課で企画された研修は良いものなので、保健補導員のみに対する研修ではなく、地域を越えて広く村全体に周知されているのであれば、それが良いと思う。

- 活動の意義は一定程度評価されている一方、「研修・会議への日程調整が難しい」、「地域での企画研修への参加者が少ない」「補導員ではなく行政が事業実施すべき」等の指摘が併存している。
- 廃止または機能移管（一部を行政が担う）を求める意見も一定数あるが、補導員活動について継続賛成の声が多数（72%）。
- 改善要望として、引き継ぎへのサポート、補導員活動の周知強化、夜間活動縮減、名称の再検討（補導員という名称が現代に合っていないのではないか。）などがあがった。持続可能な活動への行政によるサポートが望まれている。

#### 4. 今後の方向性（案）

現行機能は維持しつつ、補導員と行政との役割を明確化し、補導員の負担を軽減しつつ、地域密着の補導員活動を継続できるよう、村として引き続き支援する。

##### 【方向性（案）の理由】

廃止または機能移管を求める意見も一定数あるが、地域密着の補導員活動に対して、継続賛成の声が多い。論点は「存続か廃止か」だけでなく、「何を地域で担い、何を行政が担うか」という役割の明確化であり、補導員活動を継続できるよう、行政による持続可能な活動支援を更に充実していくことが地域の保健活動推進に最も有効な方策であると考えため。

##### 〔具体策（案）〕

- 役割の可視化：年間計画・実績の共有、標準活動メニューの提示、補導員業務の明確化  
〔例「補導員の役割が1分でわかる」リーフレット・年間運営ガイド作成検討〕
- 住民周知の強化：複数媒体（広報・放送・掲示等）の併用
- 活動支援の強化：活動を継続的に実施するためのフォローアップ支援（企画支援  
引き継ぎ支援）、成果指標（参加率・満足度等）での見える化。  
〔例：引き継ぎシートの検討、重点テーマの設定／運動習慣化（歩行・転倒予防・腰痛対策）、健診受診勧奨、災害時の健康支援、世代間交流など地区ニーズに柔軟に対応〕